

IV 漁業生産

(1) 沖縄県に於ける総漁獲量及び海域別漁獲量

沖縄県に於けるアオリイカの総漁獲量は昭和45年147トン、46年190トン、47年129トンであった。漁獲量からみると、沿岸漁業の魚種別統計では、下位にランクされるが漁獲金額からみると、マチ類、タイ類、タカサゴ類に次いで上位にランクされる。又、単一魚種としては1、2位に位置するものと思われる。

海域別漁獲量をみると図-9に示すように中城湾金武湾海域で31.8%で最も多く、次いで県北部20.2%、県南部18.6%、八重山17.1%、宮古10.1%、県中部西側2.3%となっている。中城湾、金武湾海域での漁獲量の内、中城湾での漁獲割合は83%を占めており、全沖縄のアオリイカ漁獲量中約4分の1以上を中城湾海域で漁獲している。

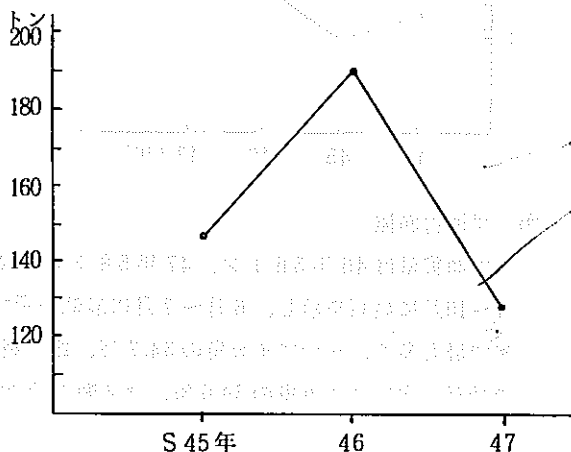


図-8 沖縄県のアオリイカ漁獲量の経年変化

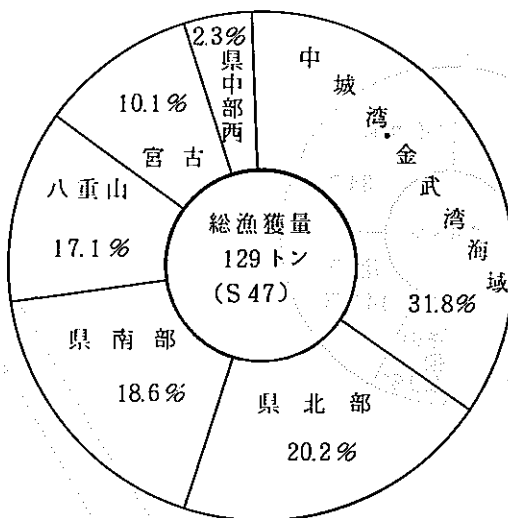


図-9 海域別漁獲量

(2) 各漁協に於ける漁獲量及び業態別漁獲量

① 糸満市漁協

糸満漁協に於ける総漁獲量は図-10に示す通り1～2トンの範囲にあって、昭和45年か

ら僅かに増加傾向を示している。業態別漁獲量を見ると、全漁獲量がイカ曳で漁獲されている。時期的には3～4月に最高を示し、8月には最低となる。

その他系満にはアオリイカを対象とした追込網があって、年間5トン前後の漁獲があるが、組合を通さないため市場資料には現われない。

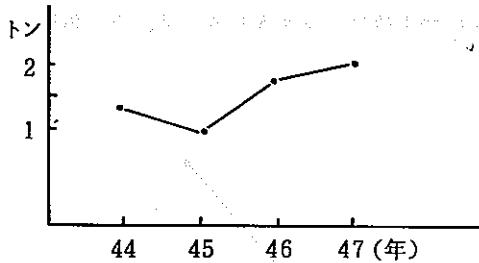


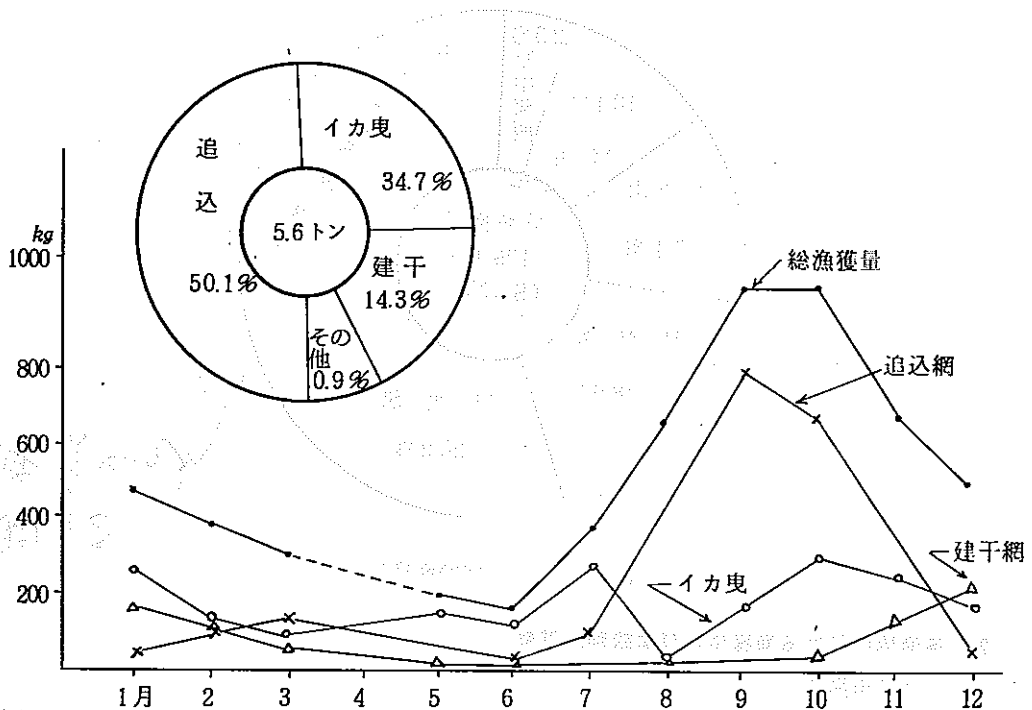
図-10

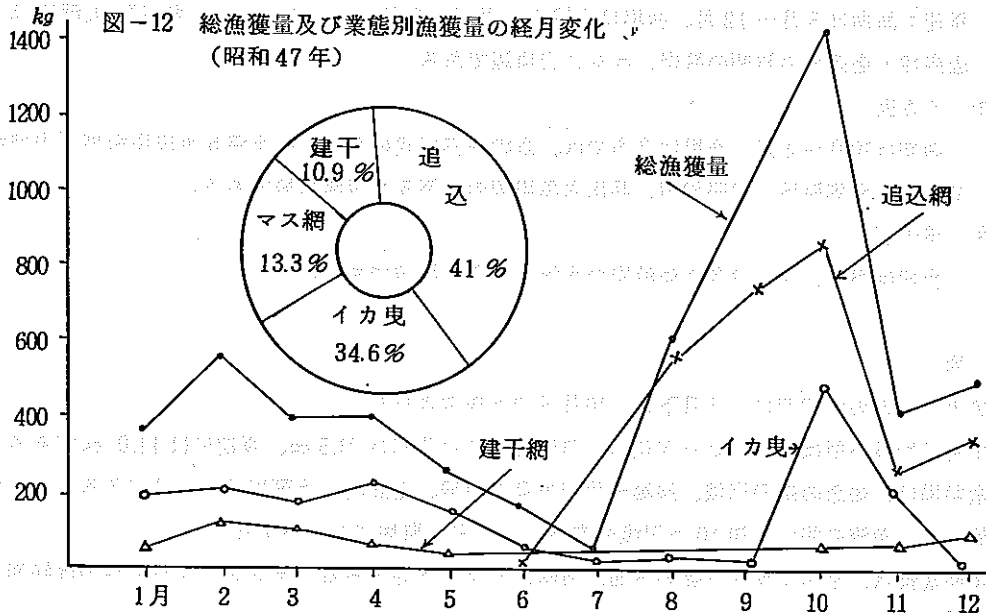
系満漁協の漁獲量の経年変化

② 勝連村漁協

総漁獲量は46年5.6トン、47年5.8トンとなっている。月別にみると46年、47年とも9月～10月に最高を示し、6月～7月に最低を示す。業態別にみると、46年には追込網50.1%で最も多く、次いでイカ曳の34.7%、建干網14.3%となっている。47年には追込41.2%で最高、次いでイカ曳の34.6%、マス網13.3%、建干10.9%となっている。

図-11 総漁獲量および業態別漁獲量の経月変化 (昭和46年)





③ 那覇地区漁協

総獲量は図-13に示すように、昭和47年には14.8トンで、昭和46年の2分の1に減少している。同漁協の漁獲量の70～80%が宮古、八重山で漁獲したものを集荷人によって水揚げされているため、その漁業の実態は明らかでないが、大部分が追込網によるものと思われる。

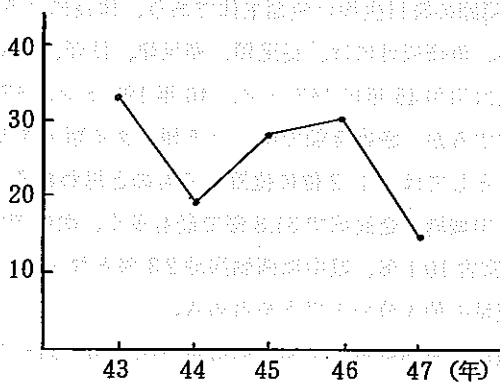


図-13 那覇地区漁協に於ける漁獲量の経年変化

(3) 操業実態

① 追込網

糸満：漁期は9月～5月、漁場は那覇～喜屋武にかけてのサンゴ礁の内側海域、そしてチーピン周辺、知念の南側海域、操業日数は月18～27日、昭和46年9月～47年5月までの漁獲量はアオリイカ5.1トン、甲イカ2.5トンであった。